

コンクリートはく落を防止

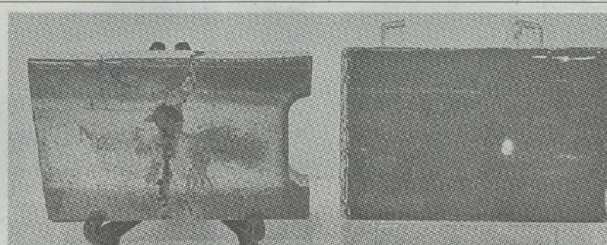
土木分野の新コーティング剤

藤倉化成

藤倉化成は建築用塗料を主体とする塗料事業で、土木分野の開拓を進める。コンクリートのはく落防止に寄与するコーティング剤の開発に成功。トンネル内壁での使用を想定して年内にサンプル提供を開始する計画で、2026年の初採用を目指す。まずは民間用途で実績を積んだのち、3年以内で公共工事への採用を狙い事業規模の拡大を図る。塗料事業の収益源だった住宅向けの先行きが不透明となる中、新たな収益の柱となる分野を育てる構えだ。

藤倉化成の塗料事業は、売上げのうち9割以上を住宅向けが占める。大手メーカーとの取引があり安定した収益を確保しているものの、少子高齢化にともなう住宅需要の伸び悩みから、同事業の中長期的な成長性には不安が残る。

将来的な成長に向けた地盤づくりとして、土木分野の開拓に乗り出す。同社の新製品は、コンクリートの耐久性を底上げするコーティング剤だ。自動車の排ガスなどの酸性物質が発生するトンネル内ではコンクリートには「中性化」と呼ばれる劣化が起こりやすく、表面がはがれ落ちる恐れがある。新製品はコンクリートに塗布することで中性化を防止し、トンネル内壁の延命化に貢献でき



新製品の塗布によりコンクリートの中性を抑止

と共同で行った。JHIEが進めていた製品開発に藤倉化成が後から加わった形だ。当初の試作段階では製品は3液型で、臭気も非常に強く、トンネルなど閉鎖環境での施工には適さない状態だった。藤倉化成は、自社のノウハウを生かし作業性や安全性、品質などの面で改良を加えた。その結果製品は2液型となり、臭気を大幅に抑えることにも成功した。市場にはすでに同様の製品が存在するが、差別化ポイントとしては、落防止に適した高い強度設定だ。加えて、塗膜が透明なため、施工後も目視でコンクリートの状態を確かめることができるともいう。開発は最終段階に入り、25年にはサンプル提供を開始する計画だ。当面はJHIEの会員企業向けに提案を行い、来年中の初採用を狙う。まずは工場など民間用途

で実績を積み重ねていく考えだ。当面の目標は公共工事での採用だ。日本国内には膨大な距離のトンネルが存在するが、その多くは改修期に入っている。塗布するだけでコンクリートを延命させられる同製品の需要は大きいと見込んでおり、公共工事での採用が得られれば事業規模の大幅な拡大が期待できる。民間での実績を踏まえて公共工事での提案も行っていき、3年以内には採用につなげる考え。量産に向けた準備も進行中だ。現在は既存の設備で生産が可能かどうかの検証や、新たな原材料の取り扱いにともなう品質管理体制の整備などを行っている。公共工事での採用が得られれば、生産規模を大幅に拡大させる可能性もあるという。同社ははく落防止コーティング剤のほかにも新たな製品開発を行う考えで、土木分野の開拓を本格的に進めていく方針だ。インフラメンテナンスという社会課題の解決に貢献することで、中長期的な成長につなげていく。